

市の借金・貯蓄額は？ 介護や水道にかかる費用は？

特別会計 国民健康保険や介護保険、下水道など、特定の人や限られた人が利益を受けるような事業について、一般会計と区別して経理を行っています。

企業会計 企業経営という観点から、水道事業は独立して経理を行っています。



市債現在高の状況 市の借金

会計	現在高
一般	182億3381万円
公共下水道事業	78億2931万円
農業集落排水事業	29億8636万円
合計	290億4947万円

基金現在高の状況 市の貯金

区分	現在高
財政調整基金	73億5231万円
特定目的基金（災害対策など）	75億4448万円
定額運用基金（土地開発基金など）	29億663万円

特別会計

会計	歳入	歳出
国民健康保険	93億414万円	88億5243万円
公共下水道事業	17億6108万円	16億9228万円
農業集落排水事業	6億5810万円	5億5362万円
田原福祉専門学校	1億1907万円	1億1906万円
介護保険	48億7133万円	45億1964万円
後期高齢者医療	7億5039万円	7億4785万円
合計	174億6411万円	164億8488万円

企業会計

水道事業会計	収入	支出
収益的収支	14億995万円	12億5605万円
資本的収支※	4525万円	5億1191万円

※資本的収入額が資本的支出額に不足する4億6666万円は、過年度分損益勘定留保資金4億3345万円および当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額3321万円にて補てんしました。




文・表中の額は1万円未満を四捨五入しているため、合計とは一致しない場合があります。

市のお財布の中身は大丈夫？

健全化判断比率の4つの指標のうち、1つでも早期健全化基準を超えると財政健全化計画を、財政再生基準を超えると財政再生計画を策定しなければなりません。また、資金不足比率が経営健全化基準を超えると、経営健全化計画を策定しなければなりません。いずれの場合も各計画に基づいて財政再建に取り組むことになりますが、本市においては、**全ての比率が基準内**であり、引き続き**財政の健全性が確認**されました。

健全化判断比率

 市の財政状況が健全かどうかを表す指標


区分	平成29年度
実質赤字比率	-
連結実質赤字比率	黒字
実質公債費比率(3カ年平均)	5.4%
将来負担比率	健全

※実質赤字比率および連結実質赤字比率については、実質収支、連結実質収支がそれぞれ黒字であるため「-」で表示しています。

※実質公債費比率については、早期健全化基準(25.0%)および財政再生基準(35.0%)の範囲内となっています。

※将来負担比率については、充当可能財源が将来負担額を上回っているため「-」で表示しています。

資金不足比率

 お財布の中身が赤字になっていないかを表す指標

特別会計の名称	平成29年度
公共下水道事業特別会計	-
農業集落排水事業特別会計	黒字
水道事業会計	-

※資金不足比率については、各会計とも資金不足額が生じていないため「-」で表示しています。

用語解説

【実質赤字比率】 一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率

【連結実質赤字比率】 全会計を対象とした実質赤字(または資金不足額)の標準財政規模に対する比率

【実質公債費比率】 一般会計等が負担する元利償還金および準元利償還金の標準財政規模に対する比率

【将来負担比率】 一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

【一般会計等】 一般会計、田原福祉専門学校特別会計



●赤羽根診療所